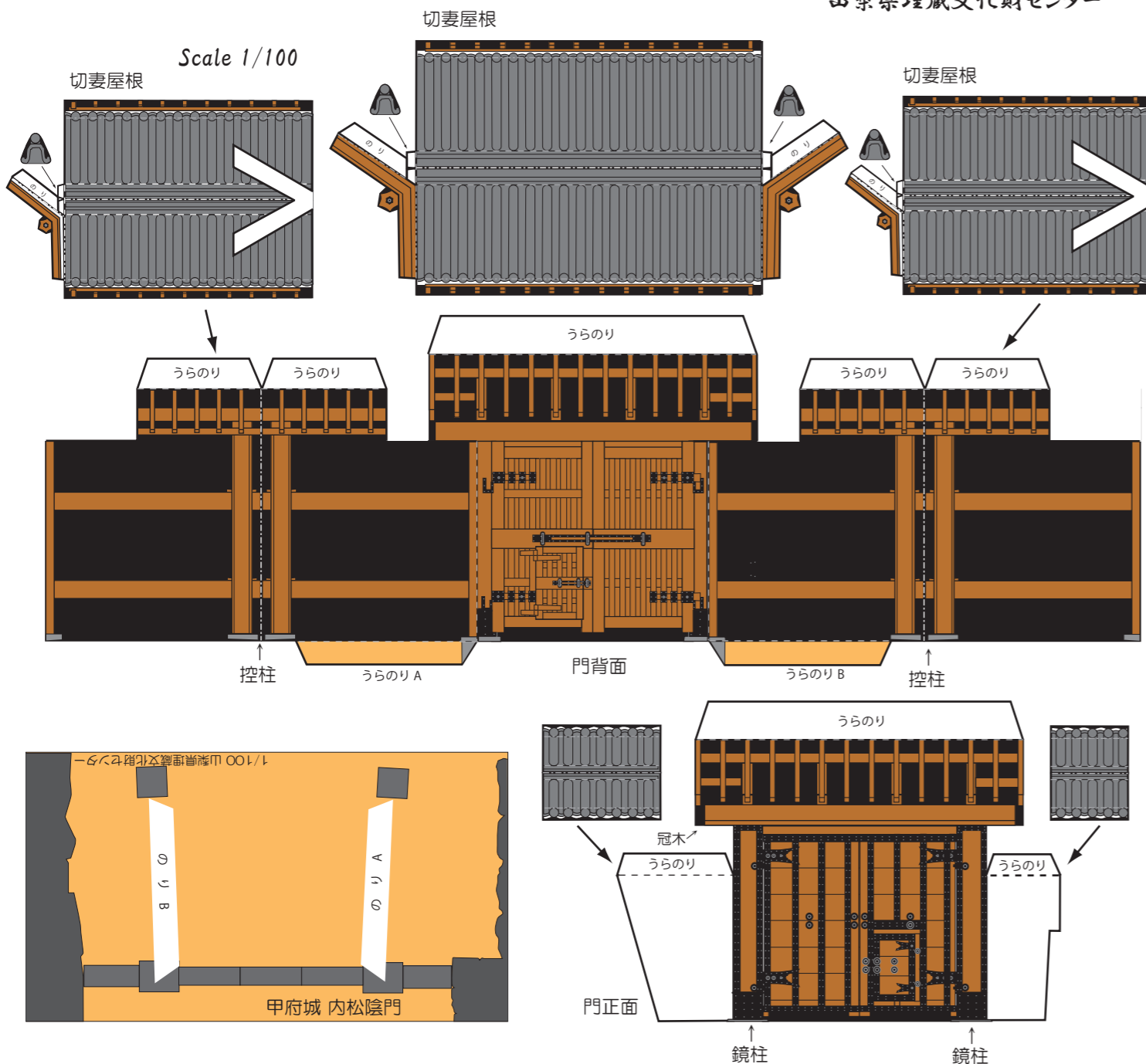


県指定史跡甲府城跡 建物シリーズⅣ 内松陰門

スケール 1/100

山梨県埋蔵文化財センター



内松陰門（うちまつかげもん）は、甲府城の屋形曲輪と二の丸をつなぐ門で本丸の北西側に位置します。現在は舞鶴陸橋がわから本丸へむかうところにあります。現在の門は発掘調査の成果から平成11年に復元しました。門は高麗門という形式で、2本の大きな柱（鏡柱）を正面にすえ、そのうえに横木（冠木）を渡して切妻屋根をのせます。これをうしろの控柱に横方向につないで支え、ここにも小さな切妻屋根を乗せています。

埋文やまなし 第54号

発行 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

☎055-266-3016

印刷

編集後記

今年は、考古博物館のトチの実が不作です。今年度のイベントでのトチモチ試食が出来るか出来ないかの瀬戸際です。しかし、5月に種を蒔いたツルマメとヤブツルアズキは、8月に花が咲きました。秋には収穫できそうです。縄文ぜんざいを今年度のイベントで提供できるようがんばっています。（池）



酒呑場遺跡（北杜市）での発掘体験セミナーのようす。

埋活を支える研究活動

本埋蔵文化財センターは、昨年度の主要課題として埋蔵文化財の活用（「埋活」）を取り上げ、年間40回を超える事業に取り組んできました。国指定史跡銚子塚古墳や県指定史跡甲府城跡を活用したイベントには大勢の参加者が集まり、土器づくり、勾玉づくりなどのワークショップをまじえた出前授業や貸し出しキットなどの需要も年々増え続けています。

こうした中で、活用事業を支える調査研究活動の重要性がますます高まってきました。研究活動は、これまで職員の個人的な興味関心を満たすものというマイナスイメージが強かったように思いますが、これは研究成果の社会的還元が少なかったことに原因の一つがあります。

しかし、埋文活用にとっては遺跡や出土品の本質的な価値を見極め、それらがもつ歴史性や意味をしっかりと裏付けをもちながら伝えていくことが必要不可欠です。また、研究の進展は、時として新たな発見による驚きと感動を生み出します。学術的な研究活動の充実は「埋活」と表裏一体のものとして、進めていくべき重点課題となっています。

山梨県埋蔵文化財センター所長 中山誠二